

報告

第 15 回 北東 3 地域本部技術士交流研修会

梶 澤 勝 則

1. はじめに

今年で第 15 回目を迎える北東 3 地域本部技術士交流研修会が、去る 12 月 7 日(金)札幌市内のホテルで開催されました。研修会には、統括本部から内村会長をお招きし、東北本部からは吉川本部長ほか 8 名、北陸本部からは大谷本部長ほか 8 名、北海道本部の参加者を含め総勢 68 名の方々の参加をいただきました。

今年は、12 月としては稀な爆弾低気圧の影響が心配され、また交流研修会の途中で三陸沖を震源とする大きな地震が発生するなどのアクシデントがありましたが、北海道本部事業委員会委員である北村技術士の司会進行により、研修発表はじめ予定していたプログラムを滞りなく終了しました。

以下に、その内容をプログラム順に報告します。

2. 研修会(13:30～17:15)

(1)開会挨拶

まず、主催者を代表し北海道本部斉藤本部長が挨拶され、今日の政局や東日本大震災の復興課題等に触れ、技術士の使命、本交流研修会のテーマ「地域における技術の役割」、平成 25 年 10 月に北海道札幌市で開催される全国大会の案内とその準備の進捗状況について述べられました。



会場全景と開会挨拶される斉藤本部長

(2)来賓挨拶

来賓を代表して、統括本部内村会長から挨拶をいただきました。技術士制度の課題として技術士の実数と会員数の乖離、活性化を目論む組織改革の变革の取り組み状況、来年度から変更される技術士試験制度の概要、最後に技術士制度そのもののあり方として①制度に対するニーズ、②来賓挨拶される内村会長
産業界からのニーズにどう応えるか、③国際的な対応などの課題提起と今後の対応方針について述べられました。



来賓挨拶される内村会長

(3)各地域本部の近況報告

挨拶の後、3 地域本部の各事務局長からそれぞれの近況について報告されました。

【北陸本部：佐藤事務局長】

北陸本部のトピックスとして、平成 24 年 7 月、旧提携富山県技術士会を改組し北陸本部富山県支部を設立した。主な取り組みとして「厳しい予算のなかで、新規合格者と会員が参加できる会合機会の増加」をコンセプトとして、各種活動を展開している。



北陸・佐藤事務局長

また、今年度は防災委員会が精力的に活動し、平成 24 年 2 月には、「北陸地方の災害と防災・減災その 1」を金沢市において発表した。

【東北本部：橋本事務局長】

東北本部では、平成24年度までに東北6県全てで県支部を設立した。

トピックスとして、全国的に技術士受験者数が減少するなか東北のみが増加している。これは、東日本大震災の復興事業に伴う技術者の集中によるものと考えられ、今後とも啓発活動を継続する。

平成25年度の本交流研修会は東北本部が担当で、福島県で開催を予定しているので是非参加されたい。

【北海道本部：森事務局長】

北海道本部の会員構成は会友1,000名を擁するのが特徴。

主な活動としては、(独)土木研究所寒地土木研究所との「提携・協力協定」に基づく提携事業をはじめ、各種のセミナー、見学会などを精力的に実施している。平成25年10月には全国大会を札幌で開催するので、多数の皆さんの参加をお待ちしています。

(4) 研修発表会(配布資料発表概要の原文を掲載)

研修発表は各本部から2編ずつ、合計6編の発表がありました。その要旨を以下に紹介します。

テーマ：「地域における技術の役割」

【趣旨】国際的な経済競争が激化する一方で、国内においては少子高齢化による社会構造の変化、団塊世代の大量退職による技術や知識の消失、原発事故に発する環境・エネルギー問題の高まり等、さまざまな成長制約要因が顕在化しており、大きな変革期を迎えている。

このような中で、経済的、社会的、文化的な豊かさを堅持し国の活力を高めるためには、時代に応じた技術開発と地域の活性化が不可欠であり、多様性や



東北・橋本事務局長



北海道・森事務局長

新たな視点に立った成長戦略・技術展開が求められている。

今回は、科学技術による地域活性化への取り組み事例や、技術の信頼・向上、継承問題等の課題に日々向き合っている方々より発表を頂き、地域における技術の役割と可能性について考えてみたい。

①「老朽化した鋼矢板水路の長寿命化対策—ストパネ工法—」

(株)水倉組 建設本部 小林 秀一
(北陸本部・建設部門)

新潟県では基幹的な農業水利施設(1,833ヶ所)により、約18万haの農地の用排水が確保されている。一方、これらの施設は老朽化が進み、平成30年度末には約6割(1,055ヶ所)が標準耐用年数を迎えるため、新たな技術の活用による長寿命化対策が急務となっている。本発表では、主に用排水路として普及してきた鋼矢板水路の老朽化に対処するため、独自の発想で開発したストパネ工法の概要と技術開発の経緯を紹介する。



北陸・小林技術士

②「沿岸漁業地域における魚礁の役割と技術」

(株)エコニクス 環境事業部 山内 繁樹
(北海道本部・水産部門)

海に自然石などを魚礁として投入し大漁を得た知見は古くからあり、魚礁による沿岸漁業地域の振興は漁業政策が重要施策の対象となり推進され始めた昭和7年の漁村経済更生計画で既に「有用水族ノ増殖ヲ図ル為投石、…等ノ築設ヲ為スコト」とされ、築磯として事業が実施されている。その後、昭和29年にはコンクリート製魚礁による本格的な魚礁設置事業が開始され現在では水産基盤整備事業として実施されている。魚礁技術は土木と生物の学際的技術であり、



北海道・山内技術士

体系化のための調査が進められてきた。この調査結果から得られた体系の概要を報告する。

③「ふるさとの再生と帰還に向けて」

福島県相双建設事務所 事業部 草野 秀夫
(東北本部・建設／環境／総監部門)

福島県では、平成 23 年に発生した東北地方太平洋沖地震、新潟・福島豪雨及び台風 15 号の大規模災害から県土の復旧・復興に取り組んでいるとともに、福島第一



東北・草野技術士

原子力発電所事故による放射性物質との格闘中であるが、依然として多数の福島県民が県内外へ避難している。

本発表では、福島県土木部が対応した世界的にも類を見ない地震及び津波と原発事故という多面的な事態対処とともに、ふるさとの再生と被災者の帰還に向けて、県土の復旧と復興への方向性と課題について報告する。

④「災害廃棄物処理業務の現状～技術を結集し迅速な廃棄物処理をめざして～」

鹿島建設(株) 環境本部 八村 幸一
(東北本部・衛生工学／上下水道部門)

宮城県石巻ブロックの災害廃棄物処理事業における混合廃棄物の破砕・選別、焼却ならびに津波堆積物処理について、その処理技術や運転状況を説明する。



東北・八村技術士

災害廃棄物を処理するに当たっては、廃棄物への津波堆積物の混入・付着、放射能問題など、当初の想定との相違による課題があった。課題に対応し、迅速な処理を進めるために行った工夫などについても説明する。

⑤「北陸地方の災害と防災・減災」

(株)国土開発センター 業務推進事業部
一願 稔(北陸本部・建設／総監部門)

北陸本部防災委員会で平成 23 年 5 月から活動を始め本年 8 月にとりまとめた「北陸地方の災害と防災・減災(その 1)」のテキスト(報告書)について、報告書の内容



北陸・一願技術士

説明のほかに技術士会の活動として学会や協会の活動とは違った立場でテキストを策定した目的や経緯及び今後の活用の方向性などについて発表する。

⑥「再生可能エネルギーの有効活用と今後の展望について」

伊藤組土建(株) 土木部 阪 豊彦
(北海道本部・建設／総監部門)

北海道を持続可能な循環型社会にするには、どのような社会システムとすべきか。

リージョナルステート研究会では、太陽光、雪、地熱、地中熱、風力、バイオマス等に着眼して、施設見学会や講演会等の活動を実施してきた。



北海道・阪技術士

本編は、本年 7 月より「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」が開始され、各種自然エネルギーの可能性について注目されている昨今、これまでの活動成果を取りまとめるとともに、本研究会としての現時点での見解を示すものである。

皆さん、すばらしい発表ありがとうございました。

3. 交流会(17:45～19:15)

会場を移し約 50 名の参加をいただき、植村事務局次長の司会進行で、皆さんお楽しみの交流会が行われました。



交流会での斉藤本部長の乾杯の様子

吉川東北本部長、大谷北陸本部長、長尾福島県支部長ほか多数の皆さんから、近況報告などいただきました。特に、福島県支部からの復興に関する話題が印象的でした。

ありがとうございます。



交流会で近況報告する
東北・畠さん

4. 市内視察・交流会その2 (19:30～)

ホテルでの交流会の後、東北本部、北陸本部の皆さんに「冬の札幌満喫企画」を用意しました。大通公園のホワイトイルミネーション、札幌テレビ塔からの大倉山ジャンプ競技場を望む夜景観察、札幌市の12月の恒例イベント「ミュンヘンクリスマス市 in SAPPORO」を視察いただきました。



札幌・ミュンヘン市姉妹都市記念事業
「ミュンヘンクリスマス市 in SAPPORO」会場視察

さらに、すすきの2次会場には30名余りの方が集結し交流研修会の総括、東北復興談義、さらにはご当地銘酒等の話題で大いに盛り上がりました。

皆さんの豊富な知識に改めて乾杯。冬の札幌をご堪能いただけたのでしょうか？



節電でちょっと寂しい札幌大通り

5. 番外報告(12月6日～8日気象情報と被害)

東北本部、北陸本部の皆さんが帰郷される12月8日は、日本海からオホーツクに抜け急速に発達した低気圧により朝から大荒れの天候となり、空の便が大幅に乱れ、結果的に多数の方々が延泊を余儀なくされ、否応なしに北海道の冬を体験していただく結末になりました。

本当にお疲れ様でした。

6. おわりに

交流研修会の前日12月6日は、朝から大荒れの天候で、斉藤本部長はじめ準備委員の面々は交通障害などについて心配していましたが、当日は思いのほか天候が回復し、北陸本部の一部参加者が遅れましたが、予定通り開催することができました。交流研修会に参加いただいた皆さん、発表者および準備に協力いただいた委員の皆さんには、この紙面を借りて改めて御礼申し上げます。

さて、来年は東北本部が当番で、福島県支部が主体となっていわき市での開催予定とのことです。震災復興、福島原発事故に誠心誠意立ち向かっている福島県支部の皆さん、ひいては東北本部の皆さんの活躍の姿を学びに行きましょう。

花澤 勝 則 (かばさわ かつのり)

技術士(建設部門)

日本技術士会北海道本部
事業委員会幹事
株式会社ドーコン